

第1号議案

2025年度 事業報告

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会（市同教）は、2025年度も、あらゆる世代の皆様、私たちの事業にご参加いただき、同和問題や人権課題の現状について正しく理解していただくことをめざして、教育や啓発活動に取り組んできました。

研究大会では、大会テーマを「だれもの人権が尊重され、自分らしく生き生きとくらするまちづくり」とし、基調講演は、松村元樹さんに『ネット上の問題から考える人権・部落問題の基礎基本』の演題でご講演いただきました。人権教育では、マジョリティを多数派として捉えるだけでなく、特定の属性において差別を受けない側として捉えることにより、自らの優位性に気づかせることが大切である等、新たな視点での学びがありました。

2021年にスタートしました人権・同和教育セミナー（本年度より全4回）は、5年目にして初めて同和問題だけでなく個別の人権課題の解消をめざした学習（第1回：震災と人権、第3回：障がい者の人権）を、実施することができました。特に第1回は、みんなの人権を考える映画会とリンクする形で「震災と人権」をテーマに開催しました。

「みんなの人権を考える映画会」は、阪神・淡路大震災から30年の節目となる2025年1月17日に公開された映画「港に灯がともる」を上映いたしました。この映画は、「みんなもろい 街も、家族も わたしの心も」というキャッチコピーどおり、主人公だけでなく心に傷を負った多くの人たちが登場しています。それぞれが抱える心の傷の深さや原因も様々で、傷ついた人たちの回復への道のりもまた様々です。安達もじり監督は、全国公開前の記者発表等で、「映画全編を通して貫きたかったのは、寄り添って、深く見つめ続けることを絶対にやめないという思いです」と語られています。鑑賞後、人と人とのつながりこそが心の傷を癒してくれる、ということが静かに伝わってくる作品でした。

専門部会では、好評を得ている講師さんに継続してお世話になることや男女共同参画センターの事業に参加いただく等、それぞれの部が特色を生かして研修をすることができました。

啓発推進委員会では、例年の活動に加え、人権の歴史調査研究班が終戦80年という節目の年に戦争について学んでいただける資料「今こそ語り伝えたい 証言から知る 戦時中の暮らしと体験」を作成し、専門部会の研修や地区人権・同和教育研究大会等で、戦争の悲惨さについて訴えました。また、今回は戦争体験者の方々にも参加いただき、自らの声で語っていただいた絶望的な体験談は、魂の叫びのように会場に響きました。

市同教の啓発誌として年2回発行（昨年度までは年3回）しています会報「人権・同和教育だより 丹波篠山」は、活動内容の紹介をはじめ、参加いただいた方の感想やエッセイ等を掲載し、市民の皆様に分かりやすく親しみやすい紙面づくりに努めてきました。また、本年度は、研修会の当日資料等の紙媒体にQRコードを載せ、より簡単に市同教のホームページをご覧いただけるようにしています。これからもホームページをみていただくだけでも一つの学びとなるよう、コンテンツの充実にも努めてまいります。

市同教では、今年度の人権・同和教育セミナーや研究大会等を通して「相手へのリスペクト」「多様性の理解」「マジョリティへのかかわりの重要性」という3点は、部落差別をはじめあらゆる人権課題を解消していく上で大切な視点であると学びました。これからもこの学びを大切に、より多くの市民の皆様にご参加いただける事業をめざして創意工夫を重ねてまいります。

結びに、2025年度の事業の推進に格別のご支援・ご協力をいただきましたことに心より感謝申しあげまして事業報告と致します。

1 丹波篠山市人権・同和教育研究大会

- ① 日 時 2025年12月13日(土) 13:45~16:00
- ② 場 所 丹波篠山市立田園交響ホール
- ③ テーマ 「だれもの人権が尊重され、
自分らしく生き生きとくらせるまちづくり」
基調講演 『ネット上の問題から考える人権・部落問題の基礎基本』
- ④ 講 師 松村 元樹さん
(公益財団法人 反差別・人権研究所 常務理事兼事務局長)
- ⑤ 参加者 366名
- ⑥ 実施状況

近年、インターネット上の悪意ある様々な書き込みや無責任なフェイク情報の拡散により多くの人権課題が生じています。ネット社会は利用環境の急速な拡大により、誰もが、いつでも、どこにいても、容易に情報を入手・発信できる環境であり、個人に対する誹謗中傷や偏見、プライバシーの侵害等、悪意のある書き込みがあふれています。子どもたちでさえも意図せずに加害者や被害者として巻き込まれる等、ネット社会は深刻な人権問題となっています。今大会は、部落差別とネット人権侵害について学び、あらゆる差別解消をめざし、だれもの人権が尊重され、自分らしく生き生きとくらせるまちづくりの実現につなげようとなりました。基調講演では、インターネットが普及した現代社会において、あらたな形の部落差別がおきている事例をあげて、差別が増長する仕組みをお話いただきました。また、社会の構造や制度が多数派(マジョリティー)にむけて設計されているために、常に少数派(マイノリティー)の視点から考えなければ差別は無くならないことがわかりました。さらに、差別を無くすためには、まずは身近にあるあらゆる人権課題を自分事として考え、積極的に学び続けることが大切であることを強く感じました。

2 専門部事業

1) 保・幼部会

- ① 日 時 2025年10月28日(火) 18:30~20:00
- ② 場 所 丹南健康福祉センター 2階 研修室
- ③ テーマ 「幼児への適切な支援の在り方」
- ④ 講 師 八尾 由江さん
(一般社団法人am*am代表理事 おひさまにここクリニック)
- ⑤ 参加者 43名
- ⑥ 実施状況

本研修では、「発達の特徴を個性や強みとして捉え直す」「発達の凸凹は誰にでもあり、違いは宝である」という一貫した視点で話をされ、この視点は、子どもたち一人ひとりが持つ無限の可能性を最大限に引き出すための基盤となるものであると示唆していただきました。また、できないことは隠すのではなく「助けて」と言えるようになることが自立であり、子どもたちの行動や言動を「こうに違いない」という先入観で見るとはならず、「そうじゃないかもしれない…」という姿勢で、その背景にある真のSOSに気づくことの大切さを教えていただきました。そして自己肯定感を高める支援として、感謝の言葉「ありがとう」を積極的に伝えることが、子どもの中に確かな自己肯定感を育む好循環を生み出していく、と教えていただきました。

アンケートでは、参加者全員が、研修会を「今後の活動や生活に活かすことができそう」と回答し、参加者からは、発達の凸凹を良さと捉え、SOSを出せる環境づくりを大切にする、「響感する、響育する」という言葉に感銘を受けたなどの感

想がありました。子どもの困り感に目を向け、自己肯定感を高める適切な支援のあり方を考える貴重な機会となりました。

2) 学校部会

- ① 日時 2025年10月14日(火) 15:00~16:30
- ② 場所 四季の森生涯学習センター 東館1階 大会議室
- ③ テーマ 「今こそ語り伝えたい 証言から知る戦時中の暮らしと体験」
- ④ 講師 上田 和夫さん
井関 裕子さん 今井 進さん 酒井 雅子さん
高橋 京子さん 中野 佳代子さん 畑 善継さん
(市同教 啓発推進委員 人権の歴史調査研究班)
- ⑤ 参加者 41名
- ⑥ 実施状況

本研修では、戦後80年が経過し薄れゆく戦争体験について、市内の戦争体験者から行った聞き取り調査をもとにお話ししていただきました。特に篠山での戦時中の日常に焦点があてられ、生活全般が国によって統制され、砂糖や米までが配給制になった様子、学校では畑を耕し、軍事教練が徹底された様子、そして学徒勤労動員や海軍志願兵として若者が半ば強制的に動員された実態などが詳細に語られました。中でも、96歳の上田和夫さんご本人からの直接の証言があり、教育勅語の徹底や海軍志願兵への強制的な勧誘の体験、また全体主義の中で個人が抑圧された当時の状況について生の声として伝えていただきました。

参加者からは、「生の声が聞いたことが貴重」、「篠山の身近な戦争体験を知ることができた」との感想が多く寄せられ、平和学習や人権教育を通じて、この貴重な学びを次世代に語り継いでいくことの重要性を改めて確認しました。

戦争体験者のお話は、まるで過去の生活を映し出す映像のようであり、平和な時代が当たり前ではないことを痛感する研修会となりました。

3) PTA部会

- ① 日時 2026年1月18日(日) 13:30~15:00
- ② 場所 四季の森生涯学習センター 東館 大会議室
- ③ テーマ 「親子で考えるネット社会の光と影」
ー子どもたちの実態と本音を知ろうー
- ④ 講師 原 清治さん(佛教大学 副学長 教育学部教授)
- ⑤ 参加者 85名(同席児童生徒23名を含む)
- ⑥ 実施状況

はじめての試みとして西紀中学校2年生5名がパネラーとして登壇し、講師とともにネット社会の光と影について考察しました。また、児童生徒の参加が23名あり、家庭での話し合いのきっかけになりました。

日常の会話をLINEにたより過ぎることで、子どもが言語化できなくなる。また宿題をAIですませることで、将来的に思考能力が低くなってしまふ。ネットにより自分に都合がいい情報ばかりに触れることで、話が合う人だけしか会話をしなくなる。自分の好きなことはするが、苦手なことはしない等、ネット社会による影の部分があぶりだされました。

生徒パネラーの意見には、親がルールを守らないのに、なぜ子どもだけに厳しいのか。家庭でのルールを学校や地域に要求するのは、親への反発しか生まれない等がありました。

親が子どもと真剣に向き合い、ネット社会の影の部分をきちんと理解した上で、親子で話し合いながらローカルルールをつくるのが大切であることを学び、ネットとの上手な付き合い方を考える時間となりました。

4) 障がい者部会

啓発チラシ配布活動

- ① 日時 2025年12月4日(木)、12月14日(日)
- ② 場所 黒豆の館、バザールタウンをはじめ市内9カ所
- ③ キャッチコピー 「認め合う心と笑顔でつながる未来」
- ④ 参加者 部会構成団体 36人
- ⑤ 実施状況

障害者週間(12/3~9)にあわせ、啓発チラシを市内の8カ所で配布しました。また、12/14の市民センターまつりでも配布しました。昨年度より手渡しでの形式に戻し、当事者、関係者、市民の皆さんとのよい交流の場になっていると思います。

- ・本年度は第3回人権・同和教育セミナーを障がい者部会研修会と兼ねました。(5名参加)

5) 女性の人権と性の多様性部会

第1回男女共同参画研修会 (丹波篠山市男女共同参画センター主催事業)

- ① 日時 2025年7月4日(金) 19:00~20:30
- ② 場所 丹波篠山市民センター 多目的ホール
- ③ テーマ 「あなたの地域の存続・活性化」
~キーワードは女性、若者~
- ④ 講師 中村 和子さん
(オフィスEEE)
- ⑤ 参加者 参加者103名中19名が女性の人権と性の多様性部会として参加
- ⑥ 実施状況

過去の歴史背景から生まれた男尊女卑の概念は、固定的な性別役割や分担意識を根付かせ女性にも男性にも抑圧となっている。今、自分の周りを見て、自分自身の心の中を見て、肯定的にすり込まれて無意識にもっている偏見がないだろうか。災害時のエピソードから、普段から女性が考え実行する場をつくり、経験の機会を増やすこと、過去にすぎらず未来を見ることの大切さをお話いただきました。参加者からは、印象に残ったキーワードとして「女性も若者も向いていないのではなく慣れていないだけ」や「女性の活躍は全てにおいて必要ですから活躍しやすい環境づくりがたいせつ」などの感想がありました。

- ・第2回丹波篠山市男女共同参画研修会(2/5)「女性活躍と働き方改革の進め方~働きがい高める職場づくり~」を女性の人権と性の多様性部会理事のみなさんに案内しました。(5名参加)

6) 宗教部会

- ① 日時 2026年3月6日(金) 13:30~15:00
- ② 場所 丹波篠山市民センター 多目的ホール
- ③ テーマ 「今こそ語り伝えたい 証言から知る戦時中の暮らしと体験」
- ④ 講師 上田 和夫さん 梶村 英子さん
井関 裕子さん 酒井 雅子さん 高橋 京子さん
中野 佳代子さん 野々口 竜己さん 吉田 義弘さん
(市同教 啓発推進委員 人権の歴史調査研究班)
- ⑤ 参加者 108名
- ⑥ 実施状況

戦争が始まった時、「とうとう始まった」との思いがしたそうです。

開戦してから生活がどう変わっていったのか、学業、食糧事情、出兵して帰って来られなかった家族、肉親、友人のこと。全く知らない土地でお国のためにと信じて死んでいき、お骨も拾えない戦況、お腹の下に手榴弾を敷き自爆していった兵隊たち。

まだお元気でいらっしゃる92歳の梶村英子さん（戦争当時12歳）と上田和夫さん（戦争終戦当時16歳）の戦争のお話。

梶村さんは生活の全てが戦争のためとなり、学校では、教室から工場へ学徒動員に、戦争は人の生活を変えてしまうこと。出征兵の母が、見送る駅の改札で泣き崩れていたこと、けれども泣いて見送ることは許されなかったと、出兵していく息子も決して振り返ってはいけなかったと。

上田さんは16歳で「海軍志願兵」願書を提出し、当時は「特攻に続け」との思いであったこと。「人間はなぜ殺し合いをするのか！」と宗教関係の方が多く出席者に問いかけていた。上田さんは「どうか声を上げてください」と、それだけを話したくて私は生かされているのだと、心の叫びが胸を打ちました。

最後に戦後残ったのは父母と6男の父だけだったと語った調査研究班の高橋さん。94歳で亡くなられたお父様は「戦争だけは絶対にしてはいけない」と最後までおっしゃられていたと。

私たちは、梶村さんの「戦争を起こさない国、戦争に巻き込まれない国」を肝に銘じなければなりません。

7) 企業部会

- ① 日時 2025年10月30日（木）18:30～20:00
- ② 場所 丹波篠山市民センター 多目的ホール
- ③ テーマ 「ビジネスと人権」
- ④ 講師 長谷 友美さん
(兵庫働き方改革推進支援センター 社会保険労務士)
- ⑤ 参加者 110名
- ⑥ 実施状況

講演内要は「ビジネスと人権とは何か」「BHR推進社労士の取り組み」「なぜ人権意識が必要なのか」「企業の取り組み事例について」「SDGsとの関係性」の流れでお話いただきました。講演の中で出てくる「BHR」とは、「Business and Human Rights」の略称で、「企業活動」と「人権」の意味だそうです。難しい言葉を説明いただきながらのお話のなかで、印象に残っている言葉があります。

○「人権」とは「誰もが生まれながらに持っている権利」

○「人を大切にする」＝「命を大切にする（大きなものではなくて身近にある）」
長谷さんが実践されていることは、事務所スタッフ全員に毎月「サンクスカード」を、感謝の気持ちを込めて渡されているとのことでした。他には面談時に事前準備のなかで、「こんなこと頑張ってるなあ」など、面談相手の心が暖くなるような言葉を準備されるのも良いのでは、とのお話もされていました。

- ・第2回男女共同参画研修会（2/5）「女性活躍と働き方改革の進め方～働きがい高める職場づくり～」を企業部会の各企業に案内しました。（5名参加）

8) 高齢者部会

高齢者の人権学習は、単位老人クラブや自治会との合同で開催されました。内容は、「ネットリテラシーと人権」「『誰か』のことじゃない～人権について考える～」等、幅広い人権問題について実施しました。

老人会組織が減少傾向にある中、実施困難なところもありますが、他団体と合同で開催する等、工夫をしながら意欲的に取り組まれました。実施した学習内容と会場は、資料として添付しています。

9) 地域部会

今年度の地域部会も、できる限り参加しやすいよう、また参加したい講座が選べるように、4回の「人権・同和教育セミナー」の中から選んで参加する形式にしました。

こうしたことで、より多くの市民の方々に参加いただき、人権課題を正しく知るといふ啓発につなげようとしてしました。

①日時、場所、内容については人権・同和教育セミナー2025を参照

②参加者	第1回セミナー	24名
	第2回セミナー	16名
	第3回セミナー	14名
	第4回セミナー	16名
	計	70名

3 啓発推進委員会

啓発推進委員会においては、これまでの調査研究活動の成果を講師・ゲストティーチャーとして、市同教の諸部会や学校教育、外部の人権関係団体の学習・研修に取り組みました。教育・啓発活動へのより効果的な取組や様々な学習・研修依頼に対応できるように検討しました。

4 人権・同和教育セミナー2025

2021年度より、「人権尊重のまち丹波篠山市」をめざして、「人権・同和教育セミナー」連続講座を開講しました。会報で広く市民に参加を募集するとともに、学校教職員や行政職員の参加を募りました。

1) 第1回人権・同和教育セミナー

- ① 日時 2025年8月2日(土) 14:00~16:00
- ② 場所 丹南健康福祉センター 研修室
- ③ テーマ 「震災と人権」- 阪神・淡路大震災30年に考える
- ④ 講師 増島 智子さん(被災地NGO協働センター)
- ⑤ 参加者 57名(地域部会研修会として24名を含む)
- ⑥ 実施状況

阪神・淡路大震災のボランティア活動をきっかけに被災地支援活動に取り組んできた増島智子さんに、阪神・淡路大震災から30年にあたっての思い、また、能登地震の被災地の状況や支援活動の中で気づいた課題についてお話いただきました。被災している人を見ると、やっぱり社会的に弱い立場(高齢者・障がい者、女性、子ども、外国人等)の人が多く、これはすべての人権課題に共通する問題でもあることがわかりました。

2) 第2回人権・同和教育セミナー

- ① 日時 2025年8月30日(土) 14:00~16:00
- ② 場所 丹南健康福祉センター 研修室
- ③ テーマ 「変容する現代社会の部落差別-『差別する人の研究』からその次へ」
- ④ 講師 あくさむまりこ阿久澤麻理子さん(大阪公立大学教授)

⑤ 参加者 61名（地域部会研修会として15名を含む）

⑥ 実施状況

多くのデータをもとに現代社会がかかえる部落差別の構造をお話されました。直接的に人に差別することは、現代社会において見えにくくなっていますが、土地に対しての差別は根強く残っています。その背景には、被差別部落出身でなくともその出身土地を購入したり住んだりするなどの「見なし差別」があります。また見えにくい差別はインターネットの匿名性の中で顕在化しています。「知らない」・「無関心」からくる無自覚な差別、悪意のない差別が社会の変容とともに増えています。それは差別が社会システムに組み込まれているという事を意味することを教えていただきました。

3) 第3回人権・同和教育セミナー

① 日時 2025年11月8日（土） 14:00～16:00

② 場所 西紀老人福祉センター 健康教育ホール

③ テーマ 「“自分らしく生きて”って言うけれど…」

～適切な支援について日々思うこと～

④ 講師 八尾 由江さん

（一般社団法人am*am代表 おひさまにここクリニック）

⑤ 参加者 59名（地域部会研修会として14名、障がい者部会研修会として5名参加を含む）

⑥ 実施状況

子どもたちの人を困らせる行動の背景には、本当に伝えたい事があるかもしれない。「もしかしたら違うかもしれない」という視点をもって接することの重要性を語っていただきました。違いは障がいではなく、宝であり、可能性がそこにはある。また、「できない」ということも個性のひとつで、「できない」と言える環境をつくるのが大切。違いは特性でもあり、磨くと強みにもなり仕事にもつながる。人権といえばネガティブにとらえられがちですが、幸せの追求であるという事、そして、人権問題の解決は、すべての人の幸せにつながる事を語られました。また、まちがった先入観や思い込み、無関心が差別をうみだし、正しく学ぶ事、くらしを通じて課題を自分自身に引き寄せる事（自分事として考える）の大切さを改めて教えていただきました。

4) 第4回人権・同和教育セミナー

① 日時 2026年1月24日（土） 14:00～16:00

② 場所 丹南健康福祉センター 研修室

③ テーマ 「わたしからはじまる部落問題」

一部落差別の現実に私ができることは—

④ 講師 柴原 浩嗣さん（一般財団法人大阪府人権協会 業務執行理事）

⑤ 参加者 56名（地域部会研修会として16名を含む）

⑥ 実施状況

参加型ワークショップも交えたことで、参加者も活発に意見の交流ができました。まず自己紹介を通じて、相手を認めることは人権の尊厳につながることを示唆いただきました。部落差別の現状として、結婚差別や引っ越しなどで住む時に被差別部落ならば避ける差別、インターネットでの差別の拡散などがあります。差別拡散の防止には、情報が真実かどうか見極めるようにする事、正しい知識を身につけて差別だと気付く事、悪いうわさは容易に人に伝えない事です。部落差

別をなくすには、①うわさではなく真実を学習する、②差別をなくすための交流をすすめる、③差別禁止の法律や制度をつくることが大切です。人権とは「幸せ」の実現であり、「人がよりよく暮らすためのルール」です。とご教授いただきました。最後に、部落差別をなくすために一人一人、自分ができることを考えました。

5 「みんなの人権を考える」映画会

- ① 日時 2025年8月11日(月 祝) 14:00~16:00
- ② 場所 丹波篠山市民センター 多目的ホール
- ③ テーマ 「港に灯がともる」
- ④ 参加者 61名
- ⑤ 実施状況

今年は阪神・淡路大震災から30年の節目であり、映画『港に灯がともる』を上映しました。この映画は、震災を経験した親をもつ震災を知らない世代や、在日コリアン家族の苦しみや葛藤を描いた物語です。映画監督の安達もじりさんは、舞台挨拶等で、「30年という時の流れの中で、心にしんどさを抱えた女性が、ちょっとだけ踏ん張って半歩前に進んだよ、という話です。この物語を観てくださった人が、ちょっとだけ。ちょっとだけでいいので、やさしくなれたら、やさしい世の中になったらいいなと思っています」というメッセージを発信されています。この映画をとおして「震災と人権」、「多文化共生」また「心のケア」について学ぶことができました。

6 連携推進事業

(1) 兵庫県人権教育研究協議会・丹波地区同教・丹波市同教との連携

丹波地区人権・同和教育研究協議会の研究大会、啓発冊子編集作業に関わるなど、市域を越えた交流を行い、様々な課題について協議を行いました。丹波市同教とは交流や情報提供をしながら連携を進めてきました。

(2) 部落解放同盟丹波篠山市支部連絡協議会・部落解放共闘会議との連携

各種研修会への参加を中心に行いました。

(3) 人権推進課、教育委員会との連携

毎月1回、三者での打ち合わせ会を継続し、研究大会の内容や丹波篠山市の人権課題について協議しました。多様化、複雑化する人権課題について各関係機関での課題について情報交換しました。人権教育の推進や啓発に関わる関係機関として、今後も連携を密にして進めていきたいと考えています。

また、インターネットモニタリング事業として月に1回、インターネットの掲示板や閲覧可能なSNS等の差別的な書き込み、誹謗中傷等を確認し、市へ報告しています。

(4) その他

人権関係団体との連携

7 研究大会・研究集会への参加

(1) 第72回兵庫県人権教育研究大会丹波地区大会

- ① 日時 2025年7月26日(土) 9:00~12:30
- ② 場所 丹波篠山市立四季の森生涯学習センター
- ③ 参加者 丹波篠山市より 114名

(2) 第72回兵庫県人権教育研究大会中央大会

- ① 日時 2025年9月27日(土)

- ② 場 所 豊岡市市民会館
- ③ 参加者 丹波篠山市より 34名

(3) 第76回全国人権・同和教育研究大会

- ① 日 時 2025年11月29日(土)～30日(日)
- ② 場 所 兵庫県・大阪府
- ③ 参加者 丹波篠山市より 8名

(4) 人権啓発研究第45回兵庫県集会

- ① 日 時 2025年10月25日(土) 10:00～16:00
- ② 場 所 兵庫県立のじぎく会館
- ③ 参加者 丹波篠山市より 2名 (オンライン配信)

(5) 部落解放研究第58回全国集会

- ① 日 時 2025年11月10日(月)～11日(火)
- ② 場 所 宮崎県
- ③ 参加者 丹波篠山市より 0名 (遠方のため参加を見送りました)

(6) 第40回人権啓発研究集会

- ① 日 時 2026年1月28日(水)～29日(木)
- ② 場 所 群馬県前橋市
- ③ 参加者 丹波篠山市より 0名 (遠方のため参加を見送りました)

(7) その他

諸研究大会・研究集会に参加して学んだことを各部会や役員会の中で報告し、多くの方に広げています。

8 会報の発行、ホームページの運用

会報「人権・同和教育だより丹波篠山」を6月・10月の年間2回発行しました。「人権が尊重されるまちをつくろう」「身近な生活の中から学ぼう」をテーマに、4回の編集会議を開催し協議しました。分かりやすく、読みやすい紙面になるよう、工夫しました。

ホームページでは、総会資料、会報、専門部会情報、市同教の事業(研究大会、映画会、セミナー等)の掲載をしております。本年度より、研究大会、研修会、セミナー等、事業終了後に、研修の内容や参加者の声など研修の様子もお知らせしています。また、気象警報等により研修会を中止せざるを得ない場合など緊急の連絡もいたします。

ホームページアドレス <http://t-s-doukyou-hr.jp>



市同教ホームページ

9 市民への学習支援

講師紹介や参考資料の紹介等、各団体の研修や個々の学習を支援しました。

10 図書・出版物の紹介

図書・出版物を購入し閲覧しました。

第4号議案

2026年度 基本方針並びに活動方針・事業計画

基本方針

1. 我が国の社会に今なお存在する部落差別をはじめ、あらゆる人権課題の解消を図り、すべての人の基本的人権が尊重されるまちづくりに向け、教育や啓発活動の充実に努めます。
2. 「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」「LGBT理解増進法」「丹波篠山市人権尊重のあたたかいまちづくり条例」等、人権関係法令の理念に則り、市民、事業者、団体、機関等と広く連帯し、人権課題の解消と人権文化の確立をめざします。
3. 人権・同和教育の学習活動の場を充実させ、差別を許さない市民意識の醸成、人権意識の高い人づくり・地域づくりに努め、こころ豊かな共に生きる市民社会の実現をめざします。

活動方針

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会（市同教）は、発足以来「差別の現実に深く学ぶ」ことを基本理念として、同和問題をはじめ、あらゆる人権課題の解消と人権文化の確立をめざし、教育や啓発活動に取り組んできました。また、「日本国憲法」や「世界人権宣言」の“人間としての尊厳”と“権利の普遍性・不可侵性”という人権尊重の精神を要に活動を進めてきました。

しかし、今、私たちの周りや社会を見た時、現状はどうでしょうか？人権課題の解消や制度の変革は、歴史的にみても人権侵害を受けた当事者たちが声をあげ、立ちあがったことが最大の原動力となってきました。今ある権利がどれほどの犠牲と闘いのうえに築かれたものかという「歴史の重み」が薄れ、積みあげられた「人権の砦」の基盤が揺らいでいる危うさを感じます。

また、インターネットの普及で自分と違う考えの人を非難・排除したり、勇気を持って声をあげた人権被害当事者に対し、自分本位の間違った偏見・誹謗中傷を浴びせたり等、先人がつくった「声をあげやすい土壌」を枯らしてしまっています。

「人権」は誰かが考えるという自分から離れたことではなく、自分自身のことであり、周りの人たちや、何らかの形でつながっているみんなのことです。声があがる前に気づき、あがった声は全力で受けとめる人権感覚を常に磨いていかなければなりません。

そして、自分優先の風潮が強く、人権尊重の土台が揺らいでいる今だからこそ、一人一人が「自分もこの歴史の一部であり、次世代につなぐ点の一つである」という認識と確かな人権感覚を持って人権尊重のバトンをつないでいくことが必要です。

差別に対して「それはおかしい！」と気付くことや声をあげることで、誰かの痛みに寄り添うことは、小さな一つの点かも知れませんが、その点を欠かすことなく、次につないでいこうという意識を持つことが大事です。

私たち市同教は、本年度も同和問題をはじめ、様々な人権課題の解消をめざし「誰もが自他の人権を尊重し、自分らしく生き生きとくらせるまちづくり」の実現に向け、また、一人一人の人権への関心がさらに深まるよう、全力で取り組んでまいります。さらなるご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

事業計画

1. 第28回丹波篠山市人権・同和教育研究大会の開催 12月12日(土)
 - ・研究大会と人権フェスタとを同一日に開催し、三者(丹波篠山市・市教委・丹波篠山市同教)で連携して取り組みます。研究大会は、田園交響ホールで開催します。
 2. 専門部会
 - ・保・幼、学校、PTA、障がい者、女性と性的マイノリティ(性的少数者)の人権、宗教、企業、地域部会の8部会で取り組みを進めます。8分野別に課題と向き合い、テーマを決めて課題解決につながる学びの場を提供していきます。
 3. 人権・同和教育と啓発活動、人材育成活動
 - ・各専門部会での研修は、それぞれの場で学びが実践へと発展するよう研修方法を工夫していきます。各団体やグループの研修会・学習会に講師を派遣したり、資料を提供したりして教育・啓発活動を支援します。
 - ・啓発推進委員会は、人権課題を踏まえ、広く市民に人権啓発活動を行い、人権文化の根付くまちづくりを担います。
 - ・「人権尊重のまち 丹波篠山市」をめざし、「人権・同和教育セミナー」連続講座を開講します。(年4回開催)
 4. 「みんなの人権を考える」映画会には「35年目のラブレター」を上映
8月11日(火祝) 14:00～四季の森生涯学習センター 多目的ホール
 5. 連携推進
 - ・部落解放丹波篠山市民共闘会議との連携
 - ・丹波地区同教、兵人教との連携
 - ・市行政(人権推進課)、市教委、各団体との連携
 6. 各研究大会・研究集会へ積極的に参加し、実践交流を図り、市の人権啓発活動に反映
 - ・第73回兵人教丹波地区大会 7月25日(土) 四季の森生涯学習センター
 - ・第73回兵人教中央大会 9月26日(土) 南あわじ市
 - ・人権啓発研究第46回兵庫県集会 未定
 - ・部落解放研究第59回全国集会 10月19日(月)～20日(火) 広島県
 - ・第77回全国人権・同和教育研究大会 11月28日(土)～29日(日) 埼玉県
 - ・第41回人権啓発研究集会 2月18日(木)～19日(金) 滋賀県米原市
 7. 広報啓発事業
 - ・会報「人権・同和教育だより 丹波篠山」を年2回(6月、10月)発行し、市同教の取り組みの状況を知らせるとともに、日々の生活を見つめ、感動することや不合理に感じることを市民で考え合う場となるよう工夫していきます。
 - ・ホームページでは、人権に関わる様々な情報などを市民の皆さんへ提供しています。総会資料、会報、専門部会情報、セミナーの募集、市同教の予定、関係法等を掲載しています。研究大会、研修会、セミナー等、事業終了後には、研修の内容や参加者の声など研修の様子もお知らせしています。
- また、気象警報等により研修会を中止せざるを得ない場合など緊急の連絡もいたします。
- ホームページアドレス <http://t-s-doukyou-hr.jp>
8. 市民への学習支援
 - ・一人からの学びの要望に応じ、講師や参考資料(図書・出版物等)の紹介等、研修会・学習会の支援(計画から実施)を行います。
 9. その他、目的達成に必要な事業



市同教ホームページ